

空知信用金庫・第158回地域企業景気動向調査

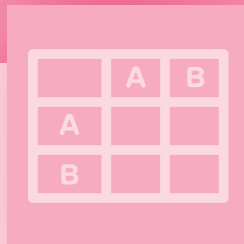
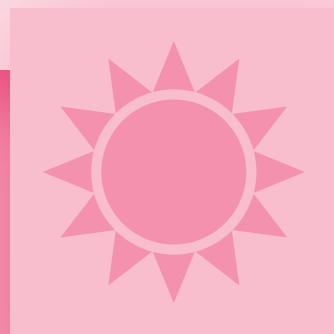
景況レポート

2026.1

このレポートは、空知信用金庫が岩見沢・美唄・三笠・栗山・由仁・長沼・南幌・江別に所在の地元企業のご協力により、令和7年10月～12月の景気の現状と令和8年1月～3月の見通しを調査したものです。

令和8年1月末日

空知信用金庫・地域支援部
岩見沢市3条西6丁目2番地1
電話(0126)22-1171



第158回 地域企業景気動向調査要項

1. 調査地域

若見沢市・美唄市・三笠市・江別市・栗山町・長沼町・南幌町・由仁町

2. 調査対象期間

令和7年10月～令和7年12月期（実績） 令和8年1月～令和8年3月期（予想）
令和7年12月1日～12月5日に実施

3. 調査の方法

面接・聞き取りによる調査

標本（調査対象企業）の抽出法としては、標本の業種・規模等の基本属性が、母集団（当金庫融資取引先）の属性に見合う基準にもとづく、有意抽出法によるもの。

4. 業況判断指数

D・I値による判断

D・Iとは？ Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略
企業の業況判断等を指数化したものであり、景気動向の方向性を示したものの。
D・Iが高ければ好景気、低ければ不景気であると判断できます。

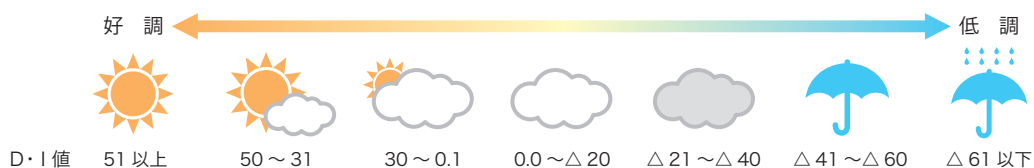
D・I値 = 「増加・やや増加・上昇の割合」 - 「減少・やや減少・下降の割合」

5. 調査対象企業数・有効回答数の内訳

| 区分 | 調査対象企業 | 有効回答数 | 有効回答率(%) |
|-------|--------|-------|----------|
| 製造業 | 24 | 23 | 96 |
| 卸売業 | 16 | 14 | 88 |
| 小売業 | 57 | 55 | 96 |
| サービス業 | 32 | 30 | 94 |
| 建設業 | 43 | 43 | 100 |
| 不動産業 | 7 | 7 | 100 |
| 運輸業 | 17 | 17 | 100 |
| 農業 | 28 | 28 | 100 |
| 計 | 224 | 218 | 97 |

6. 天気図の見方

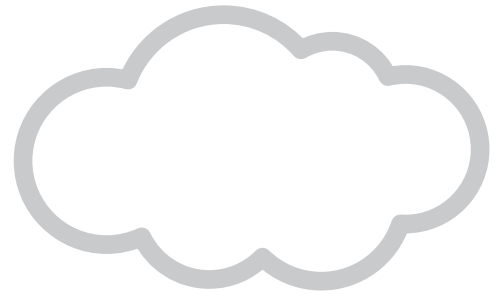
景気指標を総合的に判断して作成



7. 特別調査

「2026年（令和8年）の経営見通し」

総 合



概 況

コスト高継続、景況感は頭打ち。来期悪化見通し

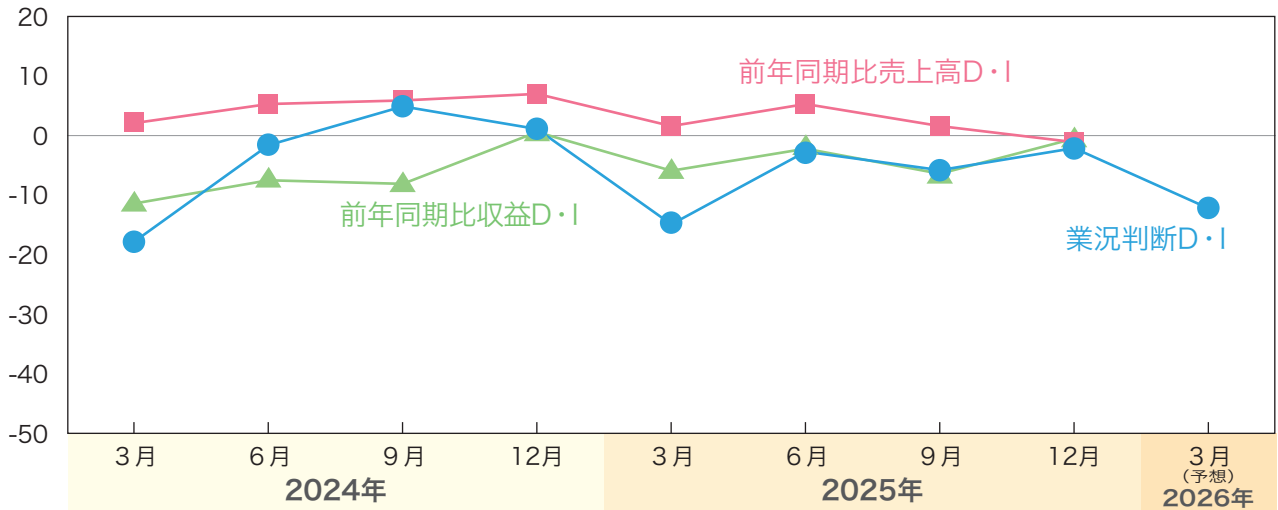
今期の業況判断指数(D・I値)は、 $\Delta 2.1$ と前期(7月~9月)より3.7ポイント上昇しました。業種別に見ますと卸売・小売・サービス業で上昇、建設・運輸業で横這いのほか、2業種はいずれも下降しました。売上高D・I値は $\Delta 1.1$ と前期比2.7ポイント下降し、卸売・不動産業で上昇、製造・小売業で横這い、他の3業種で下降しました。収益D・I値は $\Delta 0.5$ と前期比5.9ポイント上昇し、卸売・小売・サービス・不動産業で上昇、建設業で横這い、他の2業種はいずれも下降しました。

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|--------|------|--------------|--------------|---------------|
| 業況D・I | 1.1 | $\Delta 5.8$ | $\Delta 2.1$ | $\Delta 12.2$ |
| 売上高D・I | 7.0 | 1.6 | $\Delta 1.1$ | — |
| 収益D・I | 0.6 | $\Delta 6.4$ | $\Delta 0.5$ | — |

来期の見通しについて

来期の予想業況判断指数(D・I値)は $\Delta 12.2$ で、今期より8.5ポイントの下降が見込まれます。業種別では、不動産業で上昇、運輸業で横這いの他、5業種で下降を見込んでいます。主要指標は、前年同期比で物価の高騰をうけマイナス圏での推移となっており、原価上昇分の価格転嫁が進まず、来期見通しは大幅下降となっております。

主要指標の推移



前期比D・Iの推移

○販売価格D・I

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|------|---------------|------|------|---------------|
| 製 造 | 13.1 | 8.7 | 21.7 | 21.7 |
| 卸 売 | 46.2 | 53.8 | 64.3 | 57.2 |
| 小 売 | 25.5 | 18.2 | 12.8 | 7.3 |
| サービス | 23.3 | 20.0 | 20.0 | 6.6 |
| 建 設 | 41.8 | 18.6 | 21.0 | 11.6 |
| 不動産 | $\Delta 14.3$ | — | — | — |
| 運 輸 | 41.2 | 41.2 | 41.2 | 35.3 |
| 農 業 | 67.9 | 46.4 | 28.6 | $\Delta 10.7$ |

※サービス業は料金価格、建設業は請負価格、運輸業は料金単価、農業は販売単価。

○仕入価格D・I

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|------|------|------|------|------|
| 製 造 | 34.8 | 26.1 | 26.1 | 21.7 |
| 卸 売 | 30.8 | 61.5 | 71.4 | 64.3 |
| 小 売 | 40.0 | 23.7 | 20.0 | 10.9 |
| サービス | 33.3 | 30.0 | 36.7 | 20.0 |
| 建 設 | 53.5 | 46.5 | 37.2 | 25.6 |
| 不動産 | 14.3 | 14.3 | 14.3 | 14.3 |
| 運 輸 | 52.9 | 41.2 | 41.2 | 35.3 |
| 農 業 | 75.0 | 42.9 | 64.3 | 32.2 |

※製造業は原材料価格、サービス業・建設業は材料価格、運輸業は燃料価格、農業は生産資材等価格。

○人手過不足D・I

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 製 造 | △34.8 | △26.1 | △26.1 | △17.4 |
| 卸 売 | △15.4 | △15.4 | △7.1 | △7.1 |
| 小 売 | △18.2 | △21.8 | △20.0 | △20.0 |
| サービス | △43.3 | △30.0 | △30.0 | △26.7 |
| 建 設 | △46.5 | △32.6 | △18.6 | △23.3 |
| 不動産 | △14.3 | △14.3 | — | — |
| 運 輸 | △58.8 | △52.9 | △52.9 | △58.8 |
| 農 業 | — | — | — | — |

○残業時間D・I

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|------|-------|------|------|-------|
| 製 造 | 4.3 | △4.3 | △4.3 | △17.4 |
| 卸 売 | △7.7 | 7.7 | — | — |
| 小 売 | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 0.0 |
| サービス | 0.0 | △3.4 | 0.0 | △3.4 |
| 建 設 | △4.7 | △2.4 | △2.4 | 0.0 |
| 不動産 | — | — | — | — |
| 運 輸 | △11.8 | — | — | 5.9 |
| 農 業 | — | — | — | — |

○借入金の動き・難易度

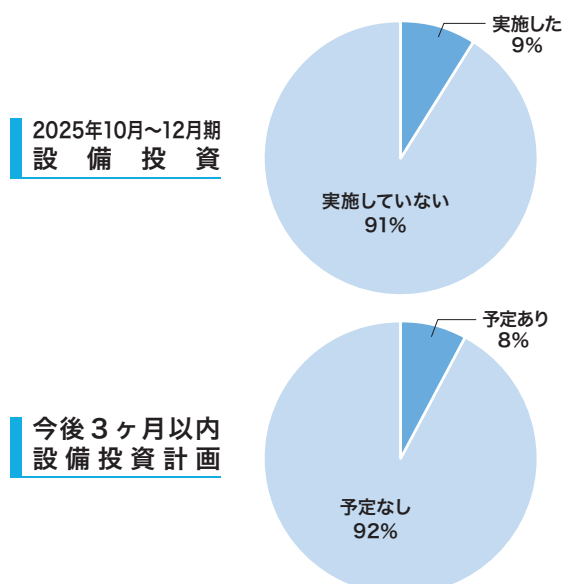
(%)

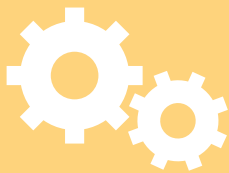
| | 借入金の実施 | 借入金の予定 | 民間金融機関からの借入難易度 | | | |
|------|--------|--------|----------------|-------|------|---------|
| | し た | あ る | 容 易 | 変わらない | 難 しい | 該 当 な し |
| 製 造 | 17.4 | 8.7 | 8.7 | 82.6 | 8.7 | — |
| 卸 売 | 7.1 | 14.3 | 14.3 | 85.7 | — | — |
| 小 売 | 25.5 | 10.9 | 3.6 | 76.4 | 5.5 | 14.5 |
| サービス | 10.0 | 10.0 | 6.7 | 80.0 | 3.3 | 10.0 |
| 建 設 | 25.6 | 14.0 | 16.3 | 69.8 | 7.0 | 6.9 |
| 不動産 | — | 14.3 | — | 85.7 | 14.3 | — |
| 運 輸 | 5.9 | 11.8 | 5.9 | 76.5 | 11.8 | 5.8 |

○設備投資の動き

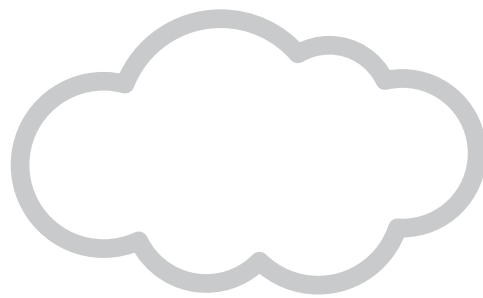
(%)

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 実施予定 |
|------|------|------|------|------|
| 製 造 | 17.4 | 8.7 | 4.3 | 8.7 |
| 卸 売 | — | — | 7.1 | 7.1 |
| 小 売 | 5.5 | 9.1 | 12.7 | 3.6 |
| サービス | 16.7 | 13.3 | 13.3 | 13.3 |
| 建 設 | 16.3 | 14.0 | 4.7 | 7.0 |
| 不動産 | — | — | — | — |
| 運 輸 | 17.6 | 5.9 | 5.9 | 11.8 |
| 農 業 | 3.7 | 7.1 | 3.6 | 3.6 |





製造業



概況

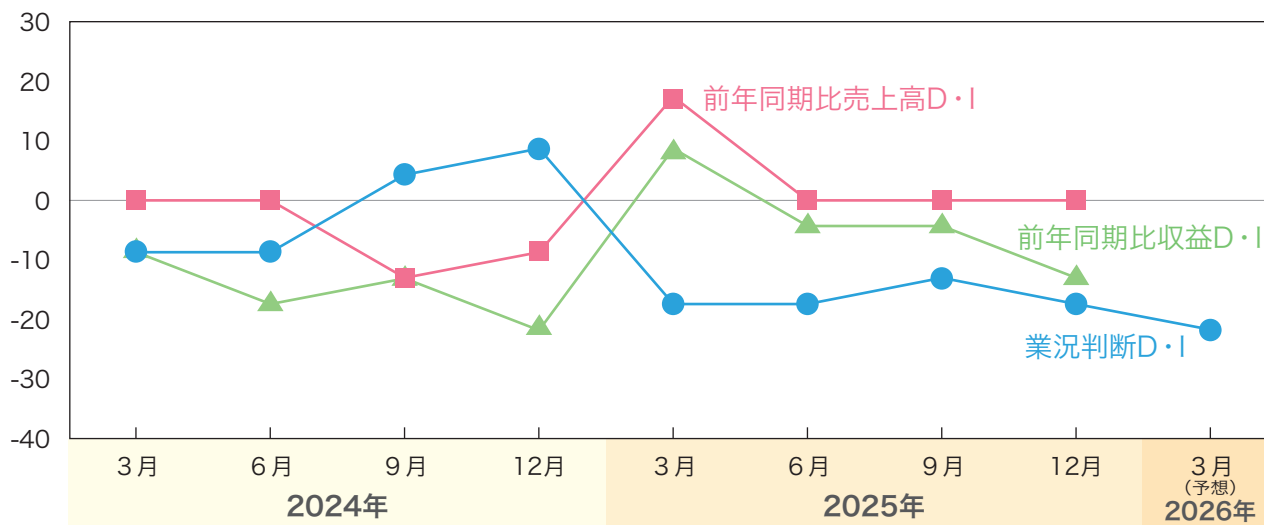
今期の業況判断指数（D・I値）は、△17.4と前期（7月～9月）から低下し4期連続マイナス圏内の業況でした。業種別では土石製品製造業で上昇しましたが、出版・印刷・同関連産業・食料品製造業で下降となりました。売上高D・I値は0.0ポイントと前期比横這い、収益D・I値も△13.0ポイントと前期比低下しました。原材料費の高騰が収益を圧迫する状況が続いています。

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| 業況D・I | 8.7 | △13.0 | △17.4 | △21.7 |
| 売上高D・I | △8.7 | 0.0 | 0.0 | — |
| 収益D・I | △21.8 | △4.3 | △13.0 | — |

来期の見通しについて

一般機械器具製造業で好伸する見込みですが、出版・印刷・同関連産業、食料品製造業で下降予想、その他の業種では現状維持見通しですが、全体では引き続き下降予想となっています。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・主要取引先の撤退の穴埋めとして新たな販路開拓を狙う。
- ・プラスチック製品の動きが鈍く業況は厳しい。
- ・為替の影響による仕入価格上昇への対応が必要。

経営上の問題点トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|--------------------------------|---------------------|
| 第1位 | 原材料高 人手不足 売上の停滞・減少 34.8% | 原材料高 43.5% |
| 第2位 | 工場・機械の狭小・老朽化 17.4% | 売上の停滞・減少 39.1% |
| 第3位 | 仕入先からの値上げ要請 人件費の増加 13.0% | 人件費増加 人手不足 21.7% |

(複数回答)

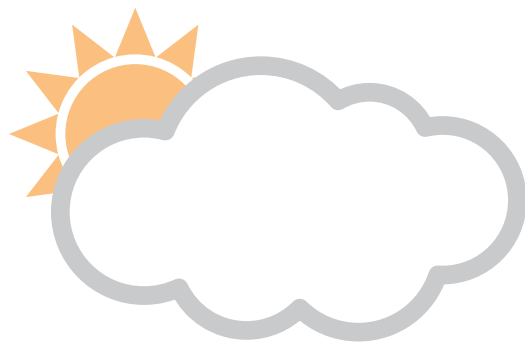
当面の重点経営施策トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|---------------|---------------|
| 第1位 | 販路を広げる 52.2% | 販路を広げる 56.5% |
| 第2位 | 人材を確保する 39.1% | 経費を節減する 34.8% |
| 第3位 | 経費を節減する 21.7% | 情報力の強化 26.1% |

(複数回答)



卸売業



概況

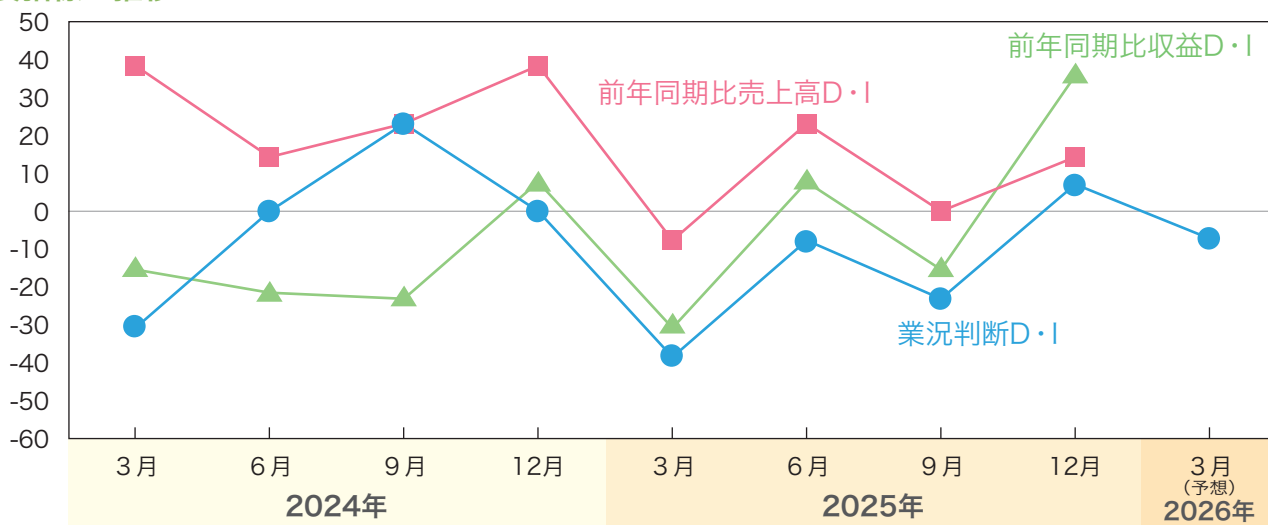
今期の業況判断指数(D・I値)は、7.1と前期(7月~9月)に比べ30.2ポイントと大幅上昇となっています。業種別では、建築材料のほか特に食料・飲料卸売業が大幅に上昇しました。一方、農畜産物・その他卸売業では大幅下降となりました。売上高D・I値も14.3ポイント、収益D・I値も35.8ポイントと前期比23.1ポイントと大幅に上昇しました。年末商戦及びコスト上昇の価格転嫁が進み業況回復が数字に反映されています。

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|--------|------|-------|------|------|
| 業況D・I | 0.0 | △23.1 | 7.1 | △7.2 |
| 売上高D・I | 38.4 | 0.0 | 14.3 | — |
| 収益D・I | 7.7 | △15.4 | 35.8 | — |

来期の見通しについて

年末商戦も一段落し、食料・飲料、機械器具卸売業で横這いの他、建築材料、その他の卸売業で下降を見込んでいます。業界全体では、再びマイナス圏で推移する見通しとなっています。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント(聞き取りを含む)の一部

- ・新事業への展開を検討している。
- ・他社商品との差別化が必要であり、自社ブランドの確立に引き続き取り組む。

経営上の問題点トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 第1位 | 利幅の縮小 53.8% | 人件費の増加 売上の停滞・減少 35.7% |
| 第2位 | 売上の停滞・減少 38.5% | 同業者間の競争の激化 利幅の縮小 21.4% |
| 第3位 | 同業者間の競争の激化 流通経路の変化による競争の激化 30.8% | 仕入先からの値上げ要請 取引先の減少 天候の不順 14.3% |

(複数回答)

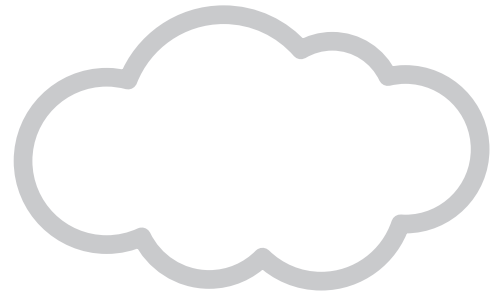
当面の重点経営施策トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|---------------------------|---------------|
| 第1位 | 販路を広げる 69.2% | 販路を広げる 78.6% |
| 第2位 | 経費を節減する 38.5% | 経費を節減する 64.3% |
| 第3位 | 情報力を強化する 人材を確保する 23.1% | 人材を確保する 14.3% |

(複数回答)



小売業



概況

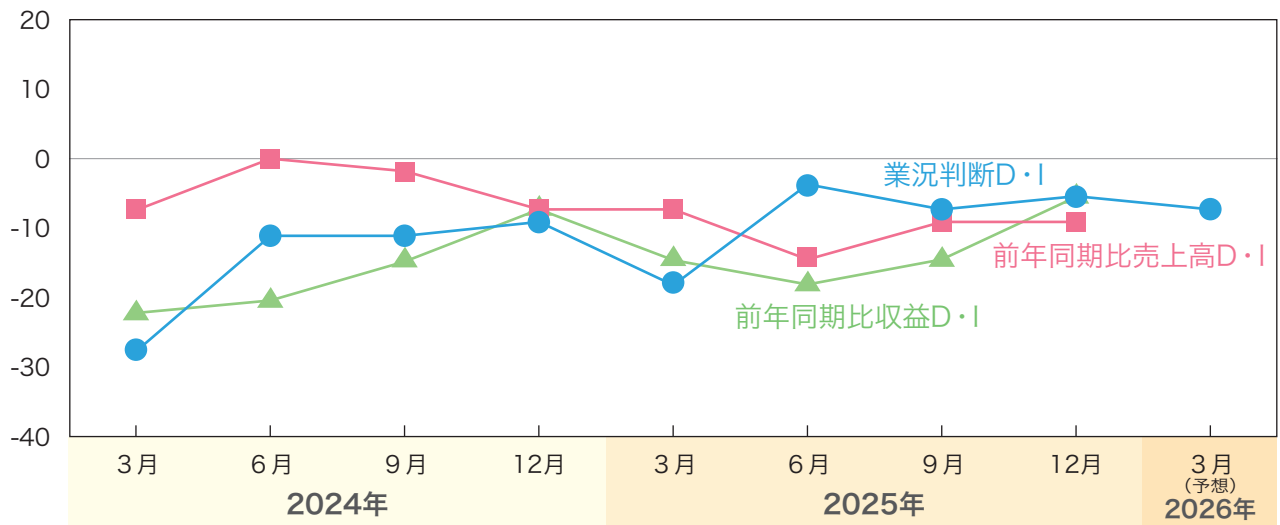
今期の業況判断指数(D・I値)は△5.4で前期(7月～9月)に比べ1.9ポイント改善傾向ながら依然マイナス圏での推移となりました。業種別では飲食料品、木材・建築材料小売業で上昇が見られたものの、自動車・自転車、家具・建具、家庭用機械・電気機械器具、飲食店で下降。その他の業種は現状維持となっています。売上高D・I値は△9.1ポイントと変化なく、収益D・I値も△5.5と前期比9.0ポイント改善したものの、依然マイナス圏での推移となりました。

| | 前年同期 | 前期 | 今期 | 見通し |
|--------|------|-------|------|------|
| 業況D・I | △9.1 | △7.3 | △5.4 | △7.3 |
| 売上高D・I | △7.3 | △9.1 | △9.1 | — |
| 収益D・I | △7.3 | △14.5 | △5.5 | — |

来期の見通しについて

燃料、木材・建築材料小売業で上昇見込ですが、その他の業種はいずれも下降見込となっており、総体でも年末の反動から悪化の見通となっています。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント(聞き取りを含む)の一部

- ・次年度は仕入先の生産数が安定する見通し。
- ・一般消費者の買い控えにより、業況は厳しくなるものと予想している。
- ・冬場の降雪により外国人観光客の来店が増加。コミュニケーション力の向上が今後の課題。
- ・人手不足であるものの多くの固定客を確保している。

経営上の問題点トップ3

| | 前年同期 | 今期 |
|-----|---------------------------|---------------------------|
| 第1位 | 商圏人口の減少 47.3% | 商圏人口の減少 売上の停滞・減少 43.6% |
| 第2位 | 売上の停滞・減少 43.6% | 人手不足 20.0% |
| 第3位 | 人件費の増加 大型店との競争激化 20.0% | 利幅の減少 16.4% |

(複数回答)

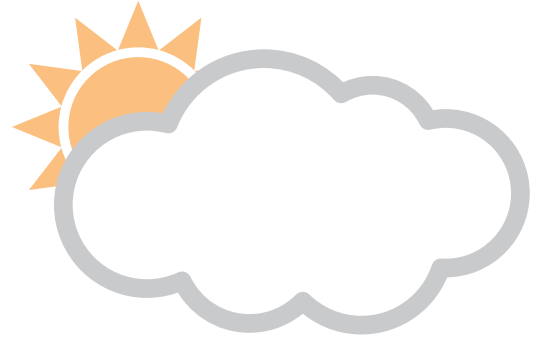
当面の重点経営施策トップ3

| | 前年同期 | 今期 |
|-----|--------------------|--------------------|
| 第1位 | 経費を節減する 50.9% | 経費を節減する 65.5% |
| 第2位 | 商店街事業を活性化させる 29.1% | 商店街事業を活性化させる 25.5% |
| 第3位 | 売れ筋商品を取り扱う 21.8% | 売れ筋商品を取り扱う 21.8% |

(複数回答)



サービス業



概況

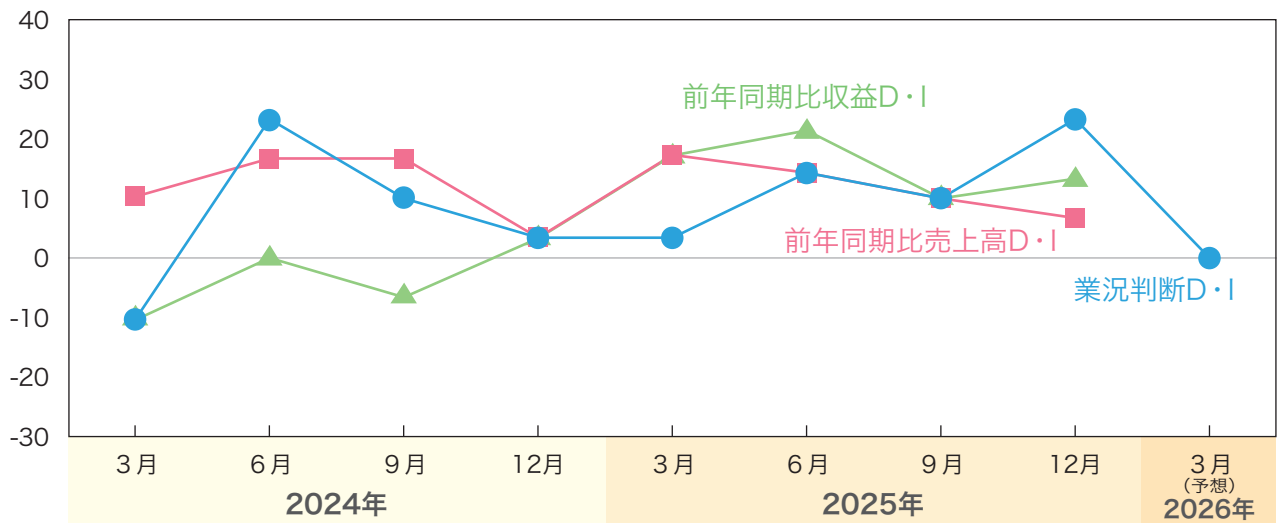
今期の業況判断指数（D・I値）は、23.3と前期（7月～9月）に比べ13.3ポイント上昇し、7期連続でプラス圏を維持しました。業種別では洗濯・理容、自動車整備・駐車場及びその他のサービス業で上昇となったほか、物品賃貸業では下降しました。そのほかの業種では横這いを維持しています。売上高D・I値は6.7と前期比3.3ポイント下降したものの、収益D・I値においては13.3と前期比3.3ポイント上昇。緩やかな回復が続いています。

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|--------|------|------|------|-----|
| 業況D・I | 3.4 | 10.0 | 23.3 | 0.0 |
| 売上高D・I | 3.4 | 10.0 | 6.7 | — |
| 収益D・I | 3.3 | 10.0 | 13.3 | — |

来期の見通しについて

その他サービス業で引き続き上昇見込みですが、物品賃貸業、洗濯・理容、自動車整備・駐車場で下降の見込みのほか、他の業種においても横這い見込みとなっており、業界全体では下降する見通しとなっています。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・技術職の高齢化と新規採用困難から慢性的に人手不足の状況が続いている。
- ・原材料価格の高騰による影響が大きく、価格転嫁による収益確保に課題。
- ・老朽化による設備更新を検討するも、不透明な景況感から慎重対応。

経営上の問題点トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|-----------------------------|-------------------------|
| 第1位 | 人手不足 46.7% | 人手不足 40.0% 売上の停滞・減少 |
| 第2位 | 売上の停滞・減少 40.0% | 材料価格の上昇 26.7% 人件費の増加 |
| 第3位 | 商圏人口の減少 23.3% 同業者間の競争の激化 | 大型店との競争の激化 20.0% |

(複数回答)

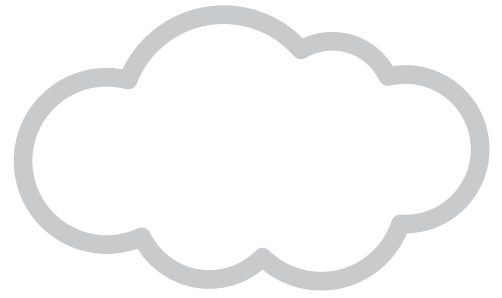
当面の重点経営施策トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|-------------------------|-------------------------|
| 第1位 | 経費を節減する 56.7% | 経費を節減する 53.3% |
| 第2位 | 人材を確保する 46.7% 販路を広げる | 人材を確保する 46.7% 販路を広げる |
| 第3位 | 宣伝・広告を強化する 20.0% | 宣伝・広告を強化する 20.0% |

(複数回答)



建設業



概況

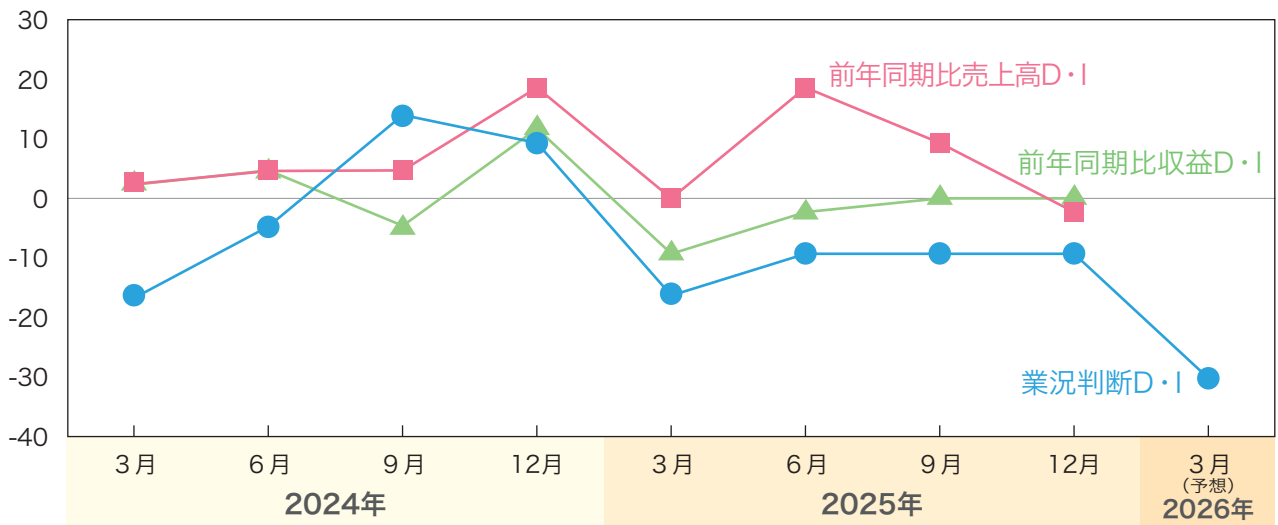
今期の業況判断指数（D・I値）は、△9.3と前期（7月～9月）と横這いに推移し依然として厳しい状況が窺えます。業種別では設備工事業で上昇となりましたが、総合工事、識別工事業で下降となりました。売上高D・I値は△2.3と前期比11.6ポイント下降し、収益D・I値は0.0ポイントと前期比横這いで推移。材料価格などの高騰が継続する中、人材確保とコスト管理が課題であるものと推測します。

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|--------|------|------|------|-------|
| 業況D・I | 9.3 | △9.3 | △9.3 | △30.2 |
| 売上高D・I | 18.6 | 9.3 | △2.3 | — |
| 収益D・I | 11.7 | 0.0 | 0.0 | — |

来期の見通しについて

全ての業種で下降の見込となっており、売上・受注ともに悪化。業界全体では、依然逆風下にあり大きく悪化する見通しとなっています。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・ 資材高騰から収益に与える影響が大きい。
- ・ 元請けからの受注に左右されており、今後の業況は不透明。
- ・ 新築、リフォームとも需要低下により、数年は受注が減少する見込み。

経営上の問題点トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|----------------|------------------------|
| 第1位 | 人手不足 55.8% | 材料価格の上昇 67.4% |
| 第2位 | 材料価格の上昇 53.5% | 人手不足 売上の停滞・減少 32.6% |
| 第3位 | 売上の停滞・減少 25.6% | 利幅の縮小 20.9% |

(複数回答)

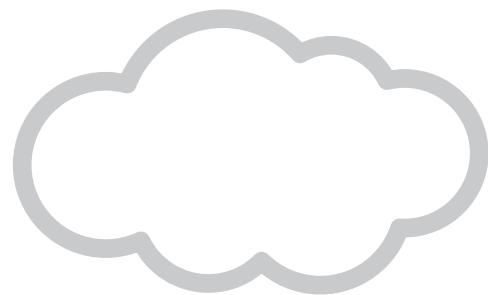
当面の重点経営施策トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|---------------|---------------|
| 第1位 | 人材を確保する 51.2% | 人材を確保する 53.5% |
| 第2位 | 経費を節減する 46.5% | 経費を節減する 48.8% |
| 第3位 | 販路を広げる 37.2% | 販路を広げる 44.2% |

(複数回答)



不動産業



概況

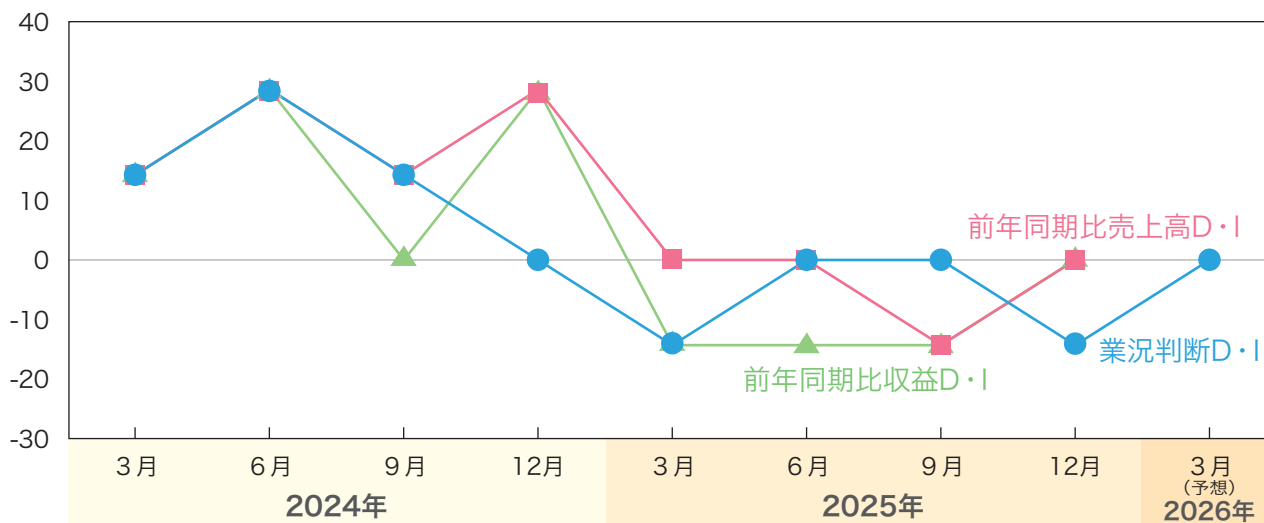
今期の業況判断指数(D・I値)は、△14.3と前期(7月~9月)から下降しました。業種別では不動産代理業・仲介業で下降し、他の業種では横這いでした。売上高D・I値は0.0と前期比上昇、収益D・I値についても0.0と前期比上昇となりました。金利上昇懸念、建築資材の高騰による物件の需要低迷が続いているものと推察されます。

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|--------|------|-------|-------|-----|
| 業況D・I | 0.0 | 0.0 | △14.3 | 0.0 |
| 売上高D・I | 28.6 | △14.3 | 0.0 | — |
| 収益D・I | 28.6 | △14.3 | 0.0 | — |

来期の見通しについて

一部の不動産代理・仲介業で持ち直しの動きはあり、その他の業種では現状を維持する見通し。業界全体では改善の見通しとなっています。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント(聞き取りを含む)の一部

- ・ 建築資材高騰し、金利上昇局面にあって、物件利回りが低下。
- ・ 土地の優良物件確保が困難。
- ・ 入居率の改善、家賃引上げに課題。

経営上の問題点トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|----------------------------------|------------------------------|
| 第1位 | 同業者間の競争の激化 利幅の縮小 42.9% | 同業者間の競争の激化 売上の停滞・減少 42.9% |
| 第2位 | 商品物件の高騰 商品物件の縮小 人手不足 28.6% | 人手不足 利幅の縮小 28.6% |
| 第3位 | 人手不足 売上の停滞 | |

(複数回答)

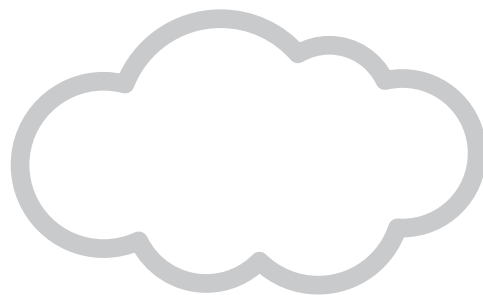
当面の重点経営施策トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|---|---------------|
| 第1位 | 経費を節減する 57.1% | 経費を節減する 85.7% |
| 第2位 | 宣伝・広告を強化する 42.9% | 販路を広げる 57.1% |
| 第3位 | 機械化を推進する 情報力を強化する 人財を確保する 販路を広げる 28.6% | 人財を確保する 42.9% |

(複数回答)



運輸業



概況

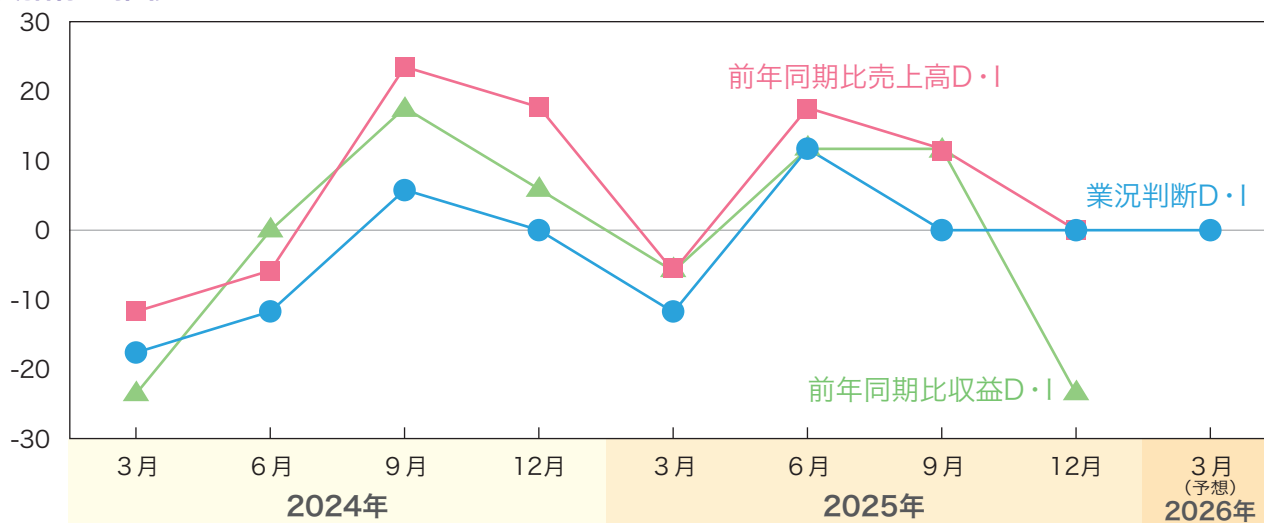
今期の業況判断指数(D・I値)は、0.0と前期(7月～9月)と前回同様の結果となりました。業種別ではその他の運輸・通信業で上昇、貨物自動車運輸業で横這い、ハイヤー・タクシー等旅客自動車で下降となっています。売上高D・I値は0.0と前期比11.7ポイント下降となり、収益D・I値は△17.6ポイントと前期比29.3ポイント下降しました。燃料価格高騰が続く中、収益を圧迫し人手不足による影響が続いています。

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|--------|------|------|-------|-----|
| 業況D・I | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 売上高D・I | 17.7 | 11.7 | 0.0 | — |
| 収益D・I | 5.9 | 11.7 | △17.6 | — |

来期の見通しについて

その他の運輸・通信業で引き続き上昇見通しとなっていますが、貨物自動車運輸業で下降を見込んでおり、業界全体では横這いの見通しとなっています。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント(聞き取りを含む)の一部

- ・ドライバー不足は恒常的。従業員の高齢化も進み、先行き不透明な状況が続いている。
- ・燃料価格の上昇、ドライバー確保に伴う人件費の増加から収益力低下。

経営上の問題点トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|---------------------------------------|------------------|
| 第1位 | 人手不足 70.6% | 人手不足 64.7% |
| 第2位 | 燃料価格の上昇 58.8% | 燃料価格の上昇 58.8% |
| 第3位 | 同業者間の競争の激化 売上の停滞・減少 利幅の縮小 17.6% | 同業者間の競争の激化 17.6% |

(複数回答)

当面の重点経営施策トップ3

| | 前年同期 | 今 期 |
|-----|---------------|---------------|
| 第1位 | 経費を節減する 70.6% | 経費を節減する 88.2% |
| 第2位 | 販路を広げる 58.8% | 人材を確保する 47.1% |
| 第3位 | 人材を確保する 35.3% | 販路を広げる 41.2% |

(複数回答)



農業



概況

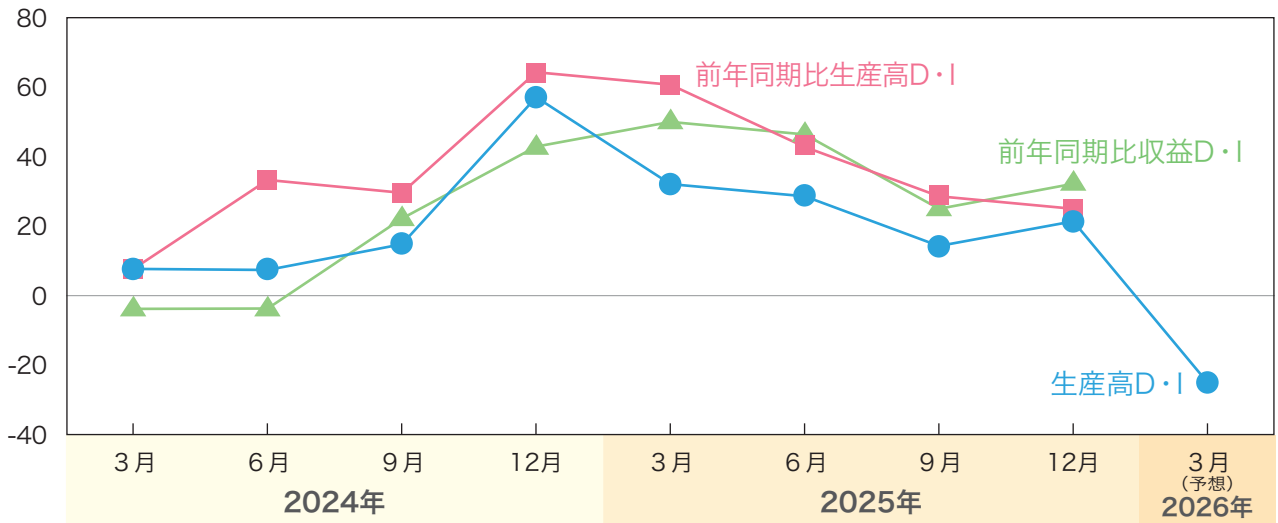
今期の生産高判断指数（D・I値）は、21.4と前期（7月～9月）に比べ7.1ポイント上昇、前年同期比生産高（D・I値）については、25.0と前期比3.6ポイント下降しました。米単価は前期より高騰（最高値）したことから上昇しておりますが、青果物が猛暑の影響等により大幅な減反（特に玉葱）となったため、前年同期比生産高の下降要因となっております。収益D・Iについては前期比7.2ポイント上昇し、好調を維持しております。

| | 前年同期 | 前 期 | 今 期 | 見通し |
|-------------|------|------|------|-------|
| 生産高D・I | 57.1 | 14.3 | 21.4 | △25.0 |
| 前年同期比生産高D・I | 64.3 | 28.6 | 25.0 | — |
| 収益D・I | 42.9 | 25.0 | 32.2 | — |

来期の見通しについて

米単価が落ち着くと予想されることから生産高D・Iは△25.0と見通しているが、生産者の収益は確保される単価であるため、経営の安定は維持可能。2026は米政策において大きな転換点を迎え、最大の焦点は新たな水田政策の制度設計である。制度の詳細決定は6月であり、食糧安全保障の強化へ生産の定着や拡大に繋がる手厚い支援が実現されるかがポイントとなる。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・米価上昇により業況は良好に推移、来年度の米価格動向について懸念がある。
- ・食用米の在庫は徐々に減少しているが、資金繰りは問題ない。
- ・若手人材の不足が続いている。

経営上の問題点トップ3

| | 前年同期 | | 今 期 | |
|-----|-------------------------|-------|------------|-------|
| 第1位 | 生産資材等価格の上昇 | 64.3% | 経費の増加 | 46.4% |
| 第2位 | 経費の増加 | 53.6% | 機械・設備の老朽化 | 35.7% |
| 第3位 | 機械・設備の値上がり 機械・設備の老朽化 | 32.1% | 生産資材等価格の上昇 | 32.1% |

(複数回答)

特別調査

2026年(令和8年)の経営見通し

当金庫が今回実施致しました第158回中小企業景気動向調査と併せて(運輸業と農業を除く)172先について「2026年(令和8年)の経営見通し」についてアンケート調査した結果です。

問1. 貴社では、2026年の日本の景気をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

- | | | |
|---------|------|---------|
| 1 非常に良い | 4 普通 | 5 やや悪い |
| 2 良い | | 6 悪い |
| 3 やや良い | | 7 非常に悪い |

| | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 建設業 | 不動産業 | 総計 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 非常に良い | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 2 良い | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 3.3% | 0.0% | 0.0% | 0.6% |
| 3 やや良い | 8.7% | 0.0% | 1.8% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.7% |
| 4 普通 | 43.5% | 35.7% | 52.7% | 60.0% | 46.5% | 85.7% | 51.2% |
| 5 やや悪い | 43.5% | 64.3% | 43.6% | 33.3% | 51.2% | 14.3% | 44.2% |
| 6 悪い | 4.3% | 0.0% | 1.8% | 3.3% | 2.3% | 0.0% | 2.3% |
| 7 非常に悪い | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 合計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

2026年の景気見通しに対し、全事業先で「良い」(やや良い・非常に良いを含む)と回答した先は2.3%(9.9%)に止まりました。「普通」の回答率が51.2%(22.8%)、「悪い」(やや悪い・非常に悪いを含む)と回答した先は46.5%(67.3%)となっております。景気の見通しを対前年で見ると、「良い」△7.6ポイント、「普通」+28.4ポイント、「悪い」△20.8ポイントとなり、前年度に「普通」と回答した事業先の1割は「良い」の見通しへランクアップ、9割は「悪い」の見通しにランクダウンとなり、全体ではやや悪化を予想しております。「悪い」(やや悪い・非常に悪いを含む)とした業種は卸売業64.3%(61.6%)が最も高く、以下建設業53.5%(60.1%)、製造業47.8%(69.5%)と続いております。

※()は前年度実績

問2. 貴社では、2026年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

- | | | |
|---------|------|---------|
| 1 非常に良い | 4 普通 | 5 やや悪い |
| 2 良い | | 6 悪い |
| 3 やや良い | | 7 非常に悪い |

| | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 建設業 | 不動産業 | 総計 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 非常に良い | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 2 良い | 4.3% | 0.0% | 1.8% | 3.3% | 0.0% | 0.0% | 1.7% |
| 3 やや良い | 8.7% | 0.0% | 1.8% | 10.0% | 2.3% | 0.0% | 4.1% |
| 4 普通 | 65.2% | 57.1% | 60.0% | 66.7% | 69.8% | 85.7% | 65.1% |
| 5 やや悪い | 21.7% | 42.9% | 36.4% | 20.0% | 27.9% | 0.0% | 28.5% |
| 6 悪い | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 14.3% | 0.6% |
| 7 非常に悪い | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 合計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

2026年の自社の業況(景気)見通しは、前問同様「普通」が65.1%(45.6%)と最も多くなりました。全事業先で「良い」(やや良い・非常に良いを含む)と回答した先は5.8%(9.9%)で前年度比△4.1ポイント、「悪い」(やや悪い・非常に悪いを含む)は29.1%(44.5%)で前年度比△15.4ポイントとなり、全体ではやや悪化を予想しています。「悪い」(やや悪い・非常に悪いを含む)とした業種別では卸売業42.9%(23.1%)が最も高く、以下小売業36.4%(43.6%)、建設業27.9%(53.5%)が続いております。

※()は前年度実績

問3. 2026年において貴社の売上額の伸び率は、2025年比べておおよそどのくらいになると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

- | | | |
|-------------|---------|-------------|
| 1 30%以上の増加 | 5 変わらない | 6 10%未満の減少 |
| 2 20~29%の増加 | | 7 10~19%の減少 |
| 3 10~19%の増加 | | 8 20~29%の減少 |
| 4 10%未満の増加 | | 9 30%以上の減少 |

| | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 建設業 | 不動産業 | 総計 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 30%以上の増加 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 2 20~29%の増加 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 3 10~19%の増加 | 13.0% | 7.1% | 3.6% | 3.3% | 2.3% | 0.0% | 4.7% |
| 4 10%未満の増加 | 26.1% | 35.7% | 10.9% | 20.0% | 14.0% | 14.3% | 17.4% |
| 5 変わらない | 47.8% | 35.7% | 61.8% | 63.3% | 67.4% | 71.4% | 59.9% |
| 6 10%未満の減少 | 13.0% | 14.3% | 21.8% | 10.0% | 11.6% | 0.0% | 14.5% |
| 7 10~19%の減少 | 0.0% | 7.1% | 1.8% | 3.3% | 4.7% | 0.0% | 2.9% |
| 8 20~29%の減少 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 14.3% | 0.6% |
| 9 30%以上の減少 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 合計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

2026年における自社の伸び率は、全体では「変わらない」回答した先が59.9%(45.6%)と最も多くなりました。全事業先で「増加」(10%未満~30%以上を含む)と回答した先は22.1%(28.6%)で、業種別では卸売業42.8%(15.4%)・製造業39.1%(34.7%)・サービス業23.3%(26.7%)の順となっております。また、全事業先で「減少」(10%未満~30%以上を含む)と回答した先は18.0%(25.8%)となりました。業種別では、小売業23.6%(27.2%)、卸売業21.4%(15.4%)、建設業16.3%(25.6%)の順で減少を見通しております。

※()は前年度実績

問4. 貴社では、自社の業況が向上転換点をいつ頃になると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 すでに上向いている | 5 3年後 |
| 2 6か月以内 | 6 3年超 |
| 3 1年後 | 7 業況改善の見通しは立たない |
| 4 2年後 | |

| | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 建設業 | 不動産業 | 総計 |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 すでに上向いている | 34.8% | 14.3% | 18.2% | 26.7% | 30.2% | 28.6% | 25.0% |
| 2 6か月以内 | 4.3% | 28.6% | 0.0% | 13.3% | 2.3% | 0.0% | 5.8% |
| 3 1年後 | 21.7% | 28.6% | 16.4% | 6.7% | 23.3% | 14.3% | 18.0% |
| 4 2年後 | 8.7% | 7.1% | 1.8% | 6.7% | 9.3% | 14.3% | 6.4% |
| 5 3年後 | 8.7% | 0.0% | 1.8% | 0.0% | 9.3% | 0.0% | 4.1% |
| 6 3年超 | 13.0% | 7.1% | 20.0% | 3.3% | 7.0% | 0.0% | 11.0% |
| 7 業況改善の見通しは立たない | 8.7% | 14.3% | 41.8% | 43.3% | 18.6% | 42.9% | 29.7% |
| 合計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

自社の業況が向上転換点では、全業種を通じ「業況改善の見通しは立たない」が29.7% (25.1%)で最も多くなりました。業種別では、サービス業・不動産業・小売業の順となり、それぞれ43.3% (16.7%)、42.9% (14.3%)、41.8% (40.0%)となっております。1年後以内(すでに上向いている・6か月以内を含む)を転換点とする回答は48.8% (44.4%)で、業種別では卸売業71.4% (84.7%)が最も高く、以下製造業60.9% (39.1%)、建設業55.8% (51.2%)が続いております。

※ () は前年度実績

問5. 紙の手形・小切手の利用状況についてお伺いします。政府は、2027年3月末までに約束手形の利用廃止、小切手の全面的な電子化の方針を示しています。貴社では、現時点で、企業間の資金決済の手段として、紙の手形・小切手を使っていますか。使っている場合はその理由を1～6から、もともと使っていたがやめた場合は現在の主な資金決済手段を7～9から、そもそも手形・小切手自体を使っていない場合は0から、最もあてはまるものを1つだけ選んでお答えください。

※選択肢上の「IB」はインターネットバンキングを指すものとします。

- | | | |
|-----------------------|--------------|------------|
| 紙の手形・小切手を使っている | 紙の手形・小切手をやめた | そもそも使っていない |
| 1 取引先との慣行で使わざるを得ない | 7 でんさい | 0 使っていない |
| 2 経理事務の変更が困難 | 8 IB | |
| 3 コスト面で現状のままが最適 | 9 その他 () | |
| 4 でんさい、IB等のセキュリティ面に懸念 | | |
| 5 でんさい、IB等の操作面に懸念 | | |
| 6 その他 () | | |

| | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 建設業 | 不動産業 | 総計 | |
|----------------|-----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 紙の手形・小切手を使っている | 1 取引先との慣行で使わざるを得ない | 8.7% | 14.3% | 12.7% | 6.7% | 11.6% | 10.5% | |
| | 2 経理事務の変更が困難 | 0.0% | 0.0% | 3.6% | 3.3% | 2.3% | 2.3% | |
| | 3 コスト面で現状のままが最適 | 0.0% | 0.0% | 5.5% | 6.7% | 7.0% | 4.7% | |
| | 4 でんさい、IB等のセキュリティ面に懸念 | 4.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.3% | 0.0% | 1.2% |
| | 5 でんさい、IB等の操作面に懸念 | 4.3% | 7.1% | 5.5% | 0.0% | 4.7% | 0.0% | 4.1% |
| | 6 その他 () | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 紙の手形・小切手をやめた | 7 でんさい | 17.4% | 0.0% | 3.6% | 3.3% | 9.3% | 6.4% | |
| | 8 IB | 21.7% | 42.9% | 16.4% | 36.7% | 27.9% | 25.0% | |
| | 9 その他 () | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 3.3% | 0.0% | 0.6% | |
| 使っていない | 0 使っていない | 43.5% | 35.7% | 52.7% | 40.0% | 34.9% | 100.0% | 45.3% |
| 合計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | |

2027年3月末までに廃止が予定されている紙の手形・小切手の利用状況について、事業先の回答では「使っていない」が45.3%、32.0%がいずれかの手段に変更している状況です。また、資金決済の手段は業種によるバラツキは見られるもののIBが主流で、手形・小切手廃止後の利用が推奨されている「でんさい」(電子記録債権)の利用は6.4%に留まり、認知を含めた周知が十分とは言えない結果となりました。

主要経済指標

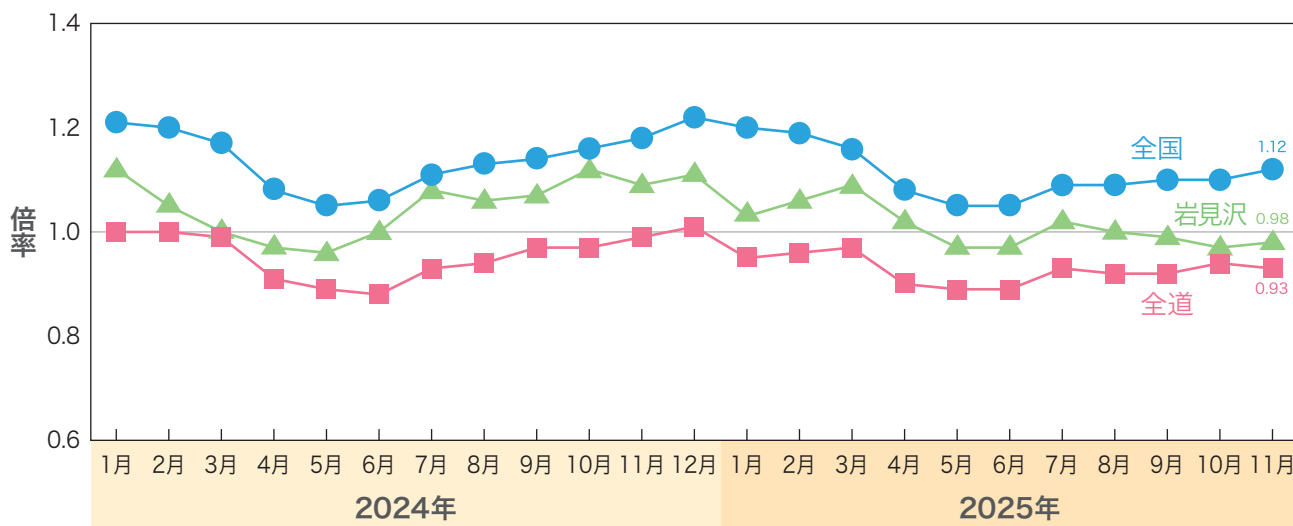
1. 空知管内・江別の人口動向

(人)

| | 2024年 | 2025年 | | | | | | | | | | |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
| 岩見沢市 | 74,238 | 74,095 | 73,984 | 73,565 | 73,510 | 73,431 | 73,317 | 73,238 | 73,171 | 73,105 | 73,008 | 72,939 |
| 美唄市 | 18,434 | 18,387 | 18,341 | 18,233 | 18,211 | 18,175 | 18,144 | 18,117 | 18,075 | 18,039 | 18,008 | 17,956 |
| 三笠市 | 7,270 | 7,245 | 7,195 | 7,168 | 7,183 | 7,146 | 7,120 | 7,099 | 7,087 | 7,063 | 7,035 | 7,012 |
| 栗山町 | 10,653 | 10,638 | 10,630 | 10,580 | 10,571 | 10,571 | 10,564 | 10,535 | 10,534 | 10,532 | 10,536 | 10,513 |
| 南幌町 | 7,933 | 7,951 | 7,972 | 8,036 | 8,066 | 8,059 | 8,076 | 8,105 | 8,125 | 8,128 | 8,159 | 8,161 |
| 由仁町 | 4,528 | 4,515 | 4,506 | 4,490 | 4,490 | 4,480 | 4,472 | 4,473 | 4,470 | 4,469 | 4,467 | 4,465 |
| 長沼町 | 9,939 | 9,905 | 9,881 | 9,838 | 9,848 | 9,832 | 9,832 | 9,838 | 9,822 | 9,824 | 9,805 | 9,779 |
| 江別市 | 118,060 | 117,936 | 117,844 | 117,517 | 117,801 | 117,801 | 117,841 | 117,849 | 117,835 | 117,874 | 117,812 | 117,751 |

(資料：空知総合振興局)

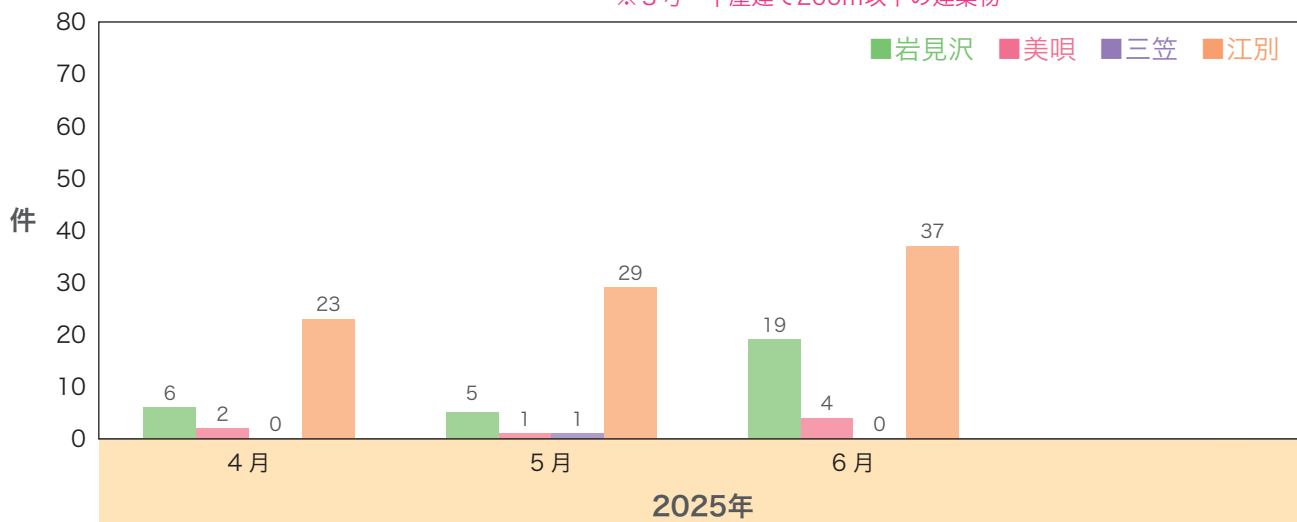
2. 岩見沢管内の有効求人倍率



(資料：北海道労働局)

3. 建築確認申請数 (2号・3号)

※2号…2階建て以上の建築物または、平屋建て200㎡超の建築物
 ※3号…平屋建て200㎡以下の建築物

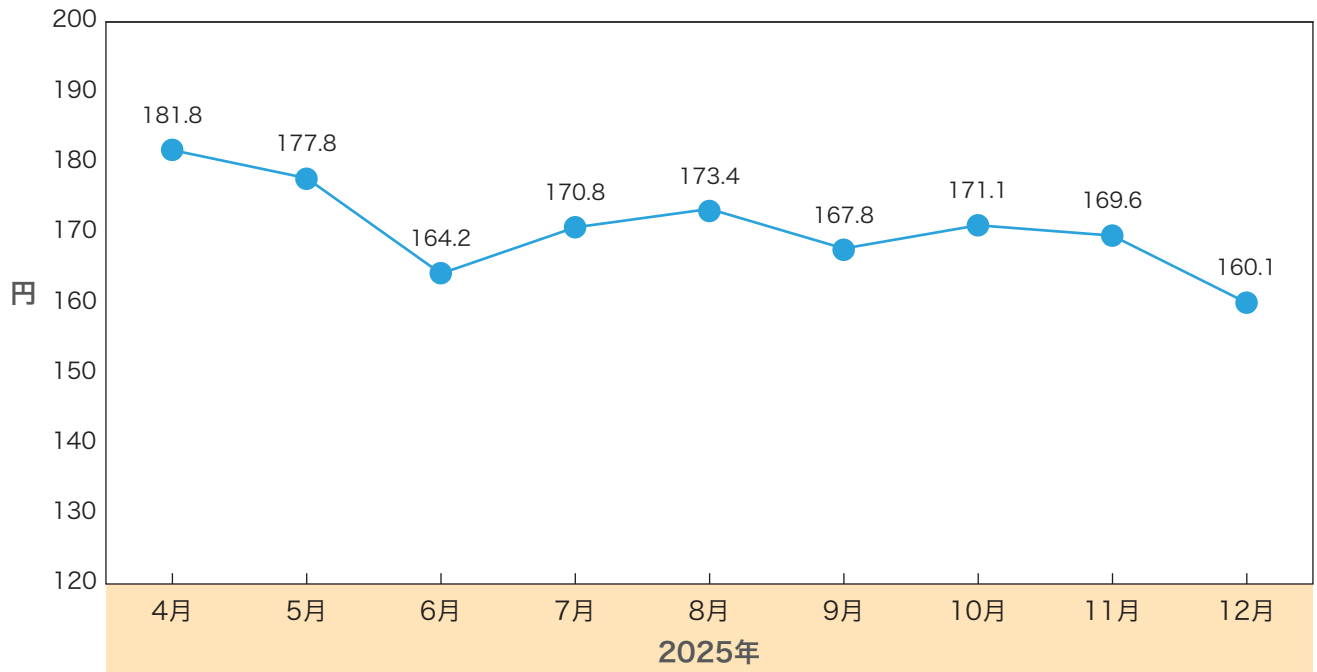


※公的データ未更新のため、前号掲載内容を再掲しています (資料：北海道建設部住宅局)

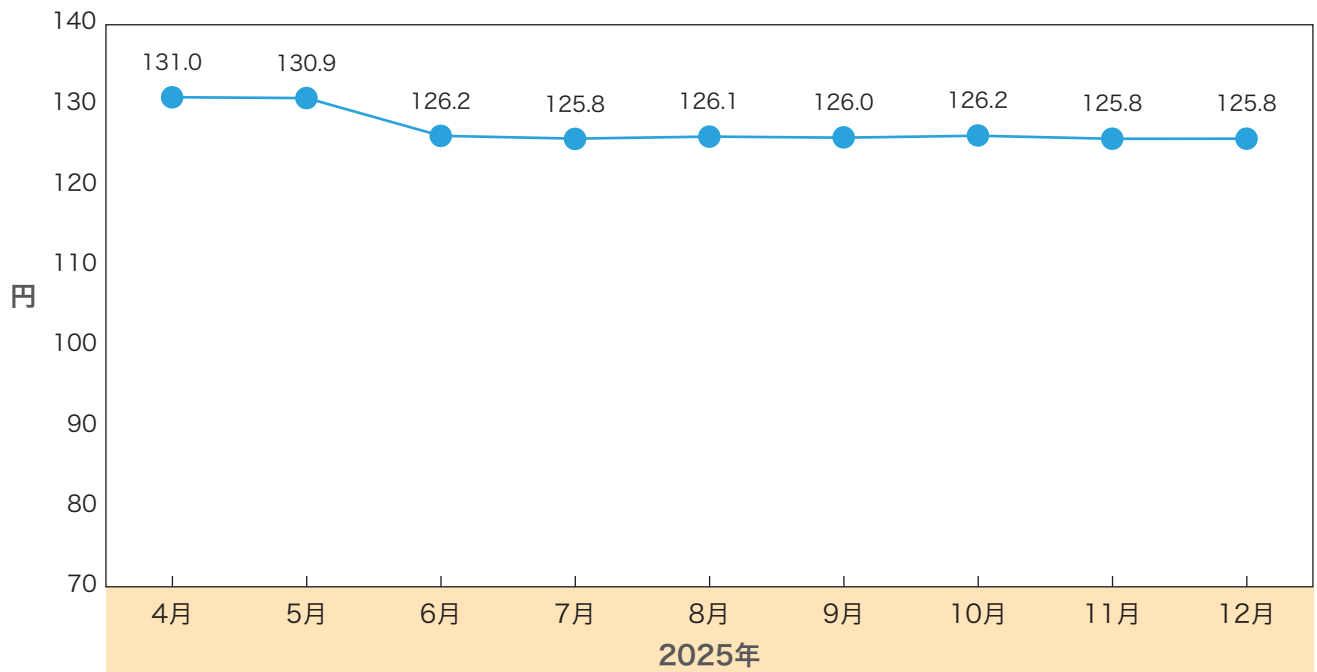
4. 管内のガソリン価格・灯油価格

(岩見沢市・三笠市・江別市・栗山町の平均を算出したもの)

① ガソリン



② 灯油



(資料：北海道消費者協会)

ビジネスマッチングコーナー

このコーナーでは、空知信用金庫のお取引先企業様をご紹介します。皆様の販路拡大やビジネスの連携をサポートする「誌上ビジネスマッチング」の場として、お役立てください。お問い合わせは、直接掲載企業もしくは、当金庫 地域支援部までご連絡ください。

(株)KLIM

取引店：白石支店

株式会社KLIMは、「毎日の食後のひと時に安心のスイーツを」を理念に、北海道の厳選素材にこだわったスイーツを提供しています。直営店舗での販売に加え、多角的な事業展開により、より多くの方の笑顔を創造しています。当社の強みである素材へのこだわりと製造技術は、業務用商品の販売や、お客様のニーズに合わせたOEM製造にも活かされています。これにより、他社様のメニュー開発や商品ラインナップ強化をサポートしております。また、北海道外の皆様にも自慢の味を直接お届けするため、全国の百貨店や商業施設での催事出店を精力的に行い、認知度とブランド力の向上を図っています。

さらに、弊社のスイーツをより多くの方に届けるため、フランチャイズ (FC) 事業を展開し、共に「幸せ」を提供して下さる方を募集しております。店舗運営から製造技術、商品供給までトータルにサポートし、パートナー様と共に成長を目指します。

スイーツの製造・販売を核に、OEM、業務用、催事出店、FC展開を通じて、人々の日常に小さな幸せを届け続けることが、株式会社KLIMの使命です。



〒004-0842 札幌市清田区清田2条1丁目15-16
担当者：川筋 成希 様
Tel 090-6267-7842 Fax 011-885-6855
Hp <https://klim-sapporo.com/>
E-mail klimkawasuji@gmail.com
n.kawasuji@klim-sapporo.com

K.L.I.M
SAPPORO

空知信用金庫の社会的取組み

空知信用金庫では、地域のお客様を直接サポートする機能強化を図るため、平成29年4月、地域支援室を立ち上げ、令和3年3月より地域支援部となりました。

地域支援部では、以下のような事業や取組みを行っております。

岩見沢市立南小学校での金融出前授業 (令和7年12月4日)

当金庫では地域貢献の一環として、各種団体向けに金融出前授業を実施しております。今回は、岩見沢市立南小学校の5年生を対象に、北海道ハイテクノロジー専門学校様と協働で、「ドローンを活用し回答する金融クイズ」行いました。生徒達は楽しみながらクイズの回答を考え、ドローンを活用する職業についても学んでいただきました。



そらちしんきん

通帳アプリ定期預金

来店不要！アプリ完結♪
スマホでいつでも
定期預金を作れます！

スーパー定期の店頭表示金利に

年 **0.10%** 上乗せ！
(税引前)

| | |
|------------|--|
| ご利用いただける方 | 「しんきん通帳アプリ」(以下、「通帳アプリ」といいます。)を契約した個人、個人事業主の方。 |
| 期 間 | 1～5年(1年単位) 自動継続(元利金継続または元金継続) |
| 預 入 方 法 | しんきん通帳アプリにおける「定期性預金取引」を通じて行います。 |
| 預 入 金 額 | 1万円以上 1,000万円未満(1円単位) 1,000万円以上となる場合は複数契約となります。 |
| 払 戻 方 法 | 通帳アプリの「定期性預金取引」機能で解約方法を指定いただくことで、連携済みの普通預金口座へ入金します。 |
| 適 用 金 利 | 預入時におけるスーパー定期預金の店頭表示金利に 0.10%(税引前)を上乗せした金利を約定利率とし、適用します。初回の満期到来後も店頭表示金利に上乗せして自動継続します。 |
| 中途解約時のお取り扱 | 定期預金を満期日前に解約する場合は、預入期間に応じた金庫所定の中途解約利率を適用します。ただし、中途解約利率が解約日の普通預金利率を下回る場合は、解約日の普通預金利率を適用します。 |
| そ の 他 | 本商品は、「定期預金満期のお知らせ」のご案内をいたしませんので、あらかじめご了承ください。(通帳アプリで契約内容をご確認ください。) 詳しくは店頭またはホームページの商品概要説明書をご覧ください |



詳しくは窓口までお問い合わせください



空知信用金庫



<https://www.shinkin.co.jp/sorachi/>

地域情報は
LINEで



令和7年7月7日現在

LINEでそらちしんきんと友だちになろう！

様々な情報をLINEでお届け！



